



今年のカレッジメイトでは、こんなことをしているよ!



広報活動



- *ホームページ: イベントの情報を載せているよ。
 - *フェイスブック: カレッジメイトの会議風景を載せたり、ホームページの更新情報などをお知らせするよ。
- 『首都圏カレッジメイト』で検索してみてね☆

国際交流調査隊

《10月》

2012年度国際交流参加者を対象にしたプログラムで、今年約70人のラボっ子が参加してくれました!
プラスの思い出もマイナスの思い出も、色々な方法で国際交流体験を振り返り、一人一人体験を経ての自分なりの目標を見つけたよ。



黒いインターキャン

《12~1月》

より多くのラボっ子に国際交流の魅力を伝えたい!という思いから、2日目の国際交流プログラムをカレッジメイトと大学生コーチが協力して企画運営をしたよ。



CMN

この新聞のこと!

いろいろな年代のラボっ子が読んで楽しめるように、カレッジメイトが伝えたいことを載せているよ。
ぜひ他のページも見てみてね♪

国際交流村

《2月》

今年は2月16日(土)に行われました★
小学生5年生から大学生までが集まって「世界と自分」をテーマに、午前は異文化、教育、世界問題、暮らしのブースに分かれて活動し、午後は年代別に活動したよ*



寄付活動

ラボっ子として世界の人たちの役に立ちたいという思いから「ラオスのこども」という団体を通して絵本を送っているよ。国際交流調査隊や、国際交流村などでたくさん集まりました! まだまだ集めているので気になった人はチューターにリストをみせてもらってね!
もっと知りたい人は「ラオスのこども」で検索してみよう!

勉強会

カレッジメイトが一人ずつ自分の興味のある国際交流について取り上げてみんなに教えたり、一緒に考えたりしています。バリアフリー、女性問題や世界遺産など、内容はさまざま!

事前活動参加者対象の冊子を作っています! 実際に国際交流で使えるライブラリーのセリフなど国際交流が楽しみになれる情報がたくさん載っているよ。

STEP

カレッジメイトって...???

私たちは、東京、神奈川、北関東信越、千葉の四つの支部から集まった国際交流が大好きな大学生です! 多くのラボっ子に世界へ触れるきっかけを与えるため、日々活動中です!

CMN

College Mate News

第31期 首都圏4支部
カレッジメイト会議発行

♡メンバー♡

北関東信越支部

早田愛(こりん) 平野貴之(たあ)
内田みずき(みずき) 飯田千尋(ちい~坊)
後藤千紘(ちーこ) 須賀美咲(みいみ)
藤田良太(のびた) 須田千奈美(ずんだ)
本間涼平(りょうへい) 五十嵐裕萌(ゆめ)
関根加菜子(かなこ)

東京支部

杉本恵里子(ピカ子) 岸本紗希(パポチ)
扇貴子(ポポ) 小関一葉(かずは)
西田亜弥(あや) 森沙織(ぴんきー)

神奈川支部

島元早紀(かーね) 木嶋彩乃(まるちゃん)
富山あゆす(あゆす) 高橋潮(みなと)

千葉支部

角友太(ゆうた) 田中香帆(かほ)
中里和弘(かず)

外国の人と話すための僕らの武器！

神奈川支部横浜みなみ地区富永パーティー 高橋潮（みなと）

外国の人と話す時って、結構緊張するよね。自分も今年カレッジリーダーとして中学生をオレゴンキャンプに引率した時をはじめはかなり緊張した。最初の一言を交わせたとしても、そのあとどう続けられればいいか分からないし、気まずい感じになるのが嫌だったから。「やっぱりコミュニケーションってまずは言葉からだよね」って、最近まで思っていた。

でも、それは違うことに気づいた。そのきっかけは鶴見俊輔さんの『「民際人」中浜万次郎の国際交流』を読んだ状態で、国際交流に挑んだから。この本は、ジョン万次郎のお話に沿って、「国際交流ってなんだろう？」っていうことが書かれているラボが出した本。この本に「ネウストプニーの原則」という言葉がある。これは、ネウストプニーというチエコ人が考えた原則で、簡単に言うと、「まずはコミュニケーションがあって、言語がある」ということを言っている。

最初に自分が考えていたことと全く違う。「言語↓コミュニケーション」ではなくて「コミュニケーション↓言語」と書いてある。頭では理解していた。しかし、それを実際にやってみる難しさも同時に知っていたので「本当に正しいのか？」と疑問を持ちながらこの本を読み終えた。

それから一ヶ月後カレッジリーダーとしてアメリカに行った。そして、自分はそこで本当の意味である本に書いてあったことを理解できた。そのきっかけはまだ中学生なりたでの参加者が現地の人と会話しているのを見たことだ。アメリカに来てから一週間過ぎた頃、その時はちょうど三つ目のキャンプ地に着いたときだった。ラボっ子と現地の人、数人でフリスビーをして遊んでいた。その会話からは一方的な英語と「OK」しか聞こえない。でも、お互いの言っていることをしっかり理解している感じだった。この時に、あの本を思い出した。そして理解した。あの本で言っていた「コミュニケーション」とは「伝えたい・聞きたいという想い」。だから、あの中学生も自分の気持ちを伝えられた。よくよく考えてみると、自分も中一の最初のホームステイのときそうだった。「Yes」「No」「OK」しか喋れないのに自分の伝えたいことを伝えられていた、聞きたいことを聞けていた。

「ジョン万次郎」にも同じようなシーンがある。万次郎たちはまったく英語を話せなかった、いやむしろ英語という言語の存在すら知らなかったけど、ホイットフィールド船長に拾われてお世話になった人達のことを理解しようとしたから、英語が聞けるようになり、話せるようになった。そこには「伝えたい・聞きたいという想い」があったからだと思う。

ラボが大切にしているのはそこなんだと思う。「伝えたい・聞きたいという想い」は、学校の授業でも、家で机に座っていても学びにくい。でも、発表会でのテーマ活動には言葉の前に「伝えたい」という想いがあると思う。そしてそれを体でも示している。だから英語のみの発表でも伝わる。逆に観客も、発表者の「伝えたいという想い」を感じるから、そして見ている自分たちの「聞きたいという想い」もあるから、英語がわからなくてもお話の内容が理解できるんだと思う。

そういったことを積み上げている自分たちラボっ子は、人一倍コミュニケーション能力を持っていることに自信を持っている。僕たちラボっ子が誇るべきところはそこなんだ。だから、外国の人と話すときも緊張しなくていい。



僕たちにはとっておきの武器があるんだから・・・。

ラボっ子だからできる

みんなが幸せな街づくり

東京支部西武地区岸本P

岸本紗希（パポチ）

いきなりですが、皆さんは自分たちの住んでいるところに外国から来た人たちがどのくらいいるか知っていますか？

ふと周りを見渡せば、インド料理屋さんのインド人のおじさん、フィリピン人のお友達ALTの英語の先生：…などたくさん外国から来た人たちが日本には住んでいるはずですよ。実は私もこの間自分の街に何人外国から来た人がいるのか気になって市役所に聞きに行きました。私の想像では、そんなにいないんだろうと思って聞いてみたら、私が住んでいる飯能市に808人の外国から来た人がいるということが分かりました。これは市の人口の1%、100人に一人です。

現在、日本には200万人ほどの在日外国人（日本に永住する外国人）が住んでいます。これに一時的に日本にいる人などを合わせるともっとたくさんいます。ところが、この数は2011年の春を境に少し減りました。なぜだか分かりますか？そのきっかけは2011年の春に起こった東日本大震災です。この震災で「受け取れる情報が少ないこと」が原因で多くの在日外国人が自分の国に帰ってしまいました。この震災で東北、北関東に住む多くの在日外国人が避難の仕方が分からず、直接被害に遭って亡くなりました。また、そのほかの地域でもいざとなったときの対応の仕方が分からない、水や食べ物への放射能が心配、などの理由で自分の国へ帰ってしまいました。春から日本で勉強をするのを諦めてしまった学生もいます。

震災の時、日本ではたくさんの方があふれ、日本人でさえもあふれとしていました。そんな時、日本語もよく分からない外国人がどれほど不安を抱えていたか、皆さんには想像がつかますか？ どの水が安全で、いざとなったらどこに逃げればいいのかも分からない、

日本は危ない国だからここにいないほうが良いかもしれない、そんな風に思った在日外国人が日本から出て行ってしまったのです。そんな中、在日外国人に対して、いろんな言葉で避難案内や防災マップなどを作った団体もありました。私がボランティアをしている国際交流協会でもこのときに在日外国人向けにいろんな案内を発行していました。でも、それを発行していること自体知らない人もたくさんいました。国際交流協会などの団体の力だけではあの大きな被害には対応し切れなかったのです。

今回は震災のことだけを取り上げましたが、外国から来た人たちは普通の学校生活や会社でも同じような状況に置かれています。

ホームステイや全く知らない土地に行ったことのあるラボっ子のみんなは、周りで何が起きているのか良く分からなくて不安になった経験もあると思います。またこれから行く子たちもそんな経験をするかもしれません。そんなみんなならきっと、日本にいる外国人がどういう気持ちでみんなの街に住んでいるのかが分かると思います。私は、みんなが住みやすい街を作るのにはそんなラボっ子の力が必ず役に立つと思っています。近くに外国人が住んでいたらちよっとでも声をかけてみてください。お友達になってみてください。もし知っていたら、どこに行けばその人が必要な情報があるか教えてください。そうすればその人たちの不安は減っていくはずですよ。みんなの力で、みんなが住みやすい街をつくることは、きっとできるはずですよ。



今年の夏、ウガンダの留学生と一緒に浅草&上野散策をした時の一枚！彼の両親も震災の時は留学中の彼をとっても心配していたそうです。

世界の歩き方@collegemate.com



私たちカレッジメイトの中には、ラボ以外にも様々な国で国際交流をしている人がたくさんいます！

今回はその中から4人の体験を紹介！みんなはどんな国に行ってみたい？



ポポ^o マルタ共和国

マルタの首都バレッタは都市全体が世界遺産に登録されていて、古く美しい町並みがすごく素敵でした！なんだか数百年前にタイムスリップした気分を味わえました。あと、驚いたのは私たちの歓迎会の食事会でウサギの照焼きが出てきたこと！食べるのに初めは勇気がいったけど、美味しかったな～。

ぴんきー^o フィリピン

実はフィリピンにはたくさんの“日本”があるんです！例えば街中で日本料理のレストランをたくさん見かけたり、トイレや車が明らかに日本製(思いっきり日本語が書いてある)だったり、テレビをつけると日本アニメ専門のチャンネル(ジブリや花より男子、新撰組などを上映していた)があってびっくり！また店員さんで日本語を上手に話せる人もたくさんいて、とってもフレンドリーな国でした(～)



こりん^o フランス

フランスのとある駅のベンチでポーっと座っていたら、小学生くらいの男の子がきて英語がびっしり書いてある紙を手渡された。「お金をください…」という内容。彼はしきりに Money のジェスチャーをして見せてくる。貧困層の人が旅行に来た外国人にお金をせがんでいるのだ。わたしがどうしていいかわからなくてあたふたしていると、警察官が彼を連れて行ってしまった。街を歩いていると地べたに座って物乞いをしている人が何人も目に入った。おしゃれな街。キラキラして裕福なイメージだったフランス。現実を目の当たりにして、自分がいかに無知であったか…考えさせられた。

パポチ^o インドネシア

信号なんて関係ない。歩行者はみんな手で車を止めながらずかずかと道を横断していきます！勇気のない人はいつまでたっても渡れません！

★ 世界には文化や生活スタイルが全く違う国がたくさんあることが分かるね。

この4人の体験を読んでみんながもっと世界に興味を持ってくれたら嬉しいな！

4人が現地で撮った写真をHPに載せてあるのでチェックしてみてね！

HPは「首都圏カレッジメイト」で検索、もしくは右のバーコードリーダーを読み取ってね。

